

木の香りの校舎

祝新校舎落成記念



平成四・五年度の二期に渡って工事が進められていた日章小学校新校舎が三月十日完成し、六月五日落成式が行われました。

式では、大町市長が「すばらしい校舎が完成した。誇りある日章小学校の伝統を守り発展させてください」とあいさつ。六年生の大谷和之君が「きれいな校舎だと勉強にも力が入ります」とお礼を述べました。この後、校庭では児童や地域の人が集まって餅投げを行って祝いました。

鉄筋コンクリート三階建、延べ床面積約二千二百二十平方メートルの校舎には、理科室や保健室などの特別教室のほか多目的ホールがあります。内部は工夫を凝らし、木の香りのする日章地区にふさわしいりっぱな校舎の完成です。



さわやかな1日

南国市体育指導員連絡協議会は、生涯スポーツに取り組むことを目的とし、その第一歩として今年初めて、「南国市さわやかハイキング」(軽登山)を企画。市内に住む女性50人の参加者は、5月22日物部村にある白髪山に登りました。山頂から眺める景色は素晴らしい、レクリエーションなどで交流と視察を深めました。また、行き帰りのバスの中では、俳句や川柳を読むなど終日、ワイワイガヤガヤと過ごし、参加者は日ごろたまったストレス解消にもなっていたようです。



みんなで梅とり



六月六日、白木谷の福祉梅林で民生児童委員、白木谷小児童ら八十人ほどが参加して、梅の実を取りました。

日ごろ止に入ることの少ない子供たちは、苦勞しながらも民生児童委員さんと協力して、約百五十*の実を取って、約一時間の作業を楽しました。

今年で六回目となるこの取り組み、採れた実は、市内の福祉施設に配られたり、梅ジュースにしたりします。

自然とのふれあいを

六月三日、岡豊小、久礼田小、長岡小、国府小の児童が、国分川に鯉を放流しました。これは、国分川をきれいにする会の主催、鯉を放流することで川に対する関心を持ち、自然を大事にする心を育てることを目的に行われたものです。

久礼田小グループで四年生三十人が、昨年九月から育てていた鯉をすくい放流。また、その他の小学校でも子供たちが国分川に入って放流するなど身近な自然とのふれあいを満喫しました。



▲6月5日に行われた市内一斉清掃では、朝早くから多くの市民の方が汗を流しました。



▲渡り鳥の飛来する十軒の石土道で、六月四日、釣り糸から野鳥を守ろうと、十市小児童や一般のボランティア約三百人がでて、釣り糸の回収清掃作業を行いました。

▼6月10日、「みどりの環境づくり」運動の一環として、香長中の生徒約100人が、片山の不燃物処理場コンメイシノなどの苗木70本を植樹しました。



▲6月4日、物部川河川敷でははたるまつりが開かれました。辺りが暗くなりはじめると、ちょうちん行列が下流内の水田わきへ、優雅に舞うほたるに初夏を感じていました。

▼5月29日、市保健福祉センターで健康づくり講演会が開かれました。岡山大学歯学部教授の渡邊達夫氏が「一生自分の歯で食べるために」と題して講演。参加者は聞き入っていました。

平成5年度健康づくり講演会



▲南国市の初夏の風物詩となったエンコウ祭り、6月4日前派、久枝の後川、秋田川で行われ、子供たちは木の事故がないようにと、ショウブの葉で作った社に手を合せました。



▲人権擁護委員の日の6月1日、浜改保育園で啓発活動が行われました。同委員によるいじめを無くそうという話に、園児たちは熱心に耳を傾けていました。また、園児全員に風船のプレゼントがありました。



▲水のシーズンを迎えようという6月15日、国分川で消防署、警察署合同の水難者救助訓練が実施され、救助資機材を使った訓練や、人工呼吸法などが行われました。

▼平成14年の高知国体に向け、5月28日、初の準備会が保健福祉センターで開かれました。この会では準備委員会を設置して、誘致種目や選手強化策の検討することを決めました。



▶五月二十三日、岩村公民館で県立盲学校赤十字治療奉仕団によるあんま・マッサージ奉仕が行われました。これは、日本赤十字社支部の行っている一日赤十字事業の一環で、お年寄りらは大変喜んでいました。



▶六月八日勤労者体育センターを会場に、リハビリ教室のミニミニレクリエーションが行われました。これは、年二回行っている戸外リハビリの一環として行われたもので、参加は教室生、保護者ら三十人は、風船バレーや主人入れなどの競技を、和気あいあいと楽しんでいます。